

県美プレミアム

2017年7月8日（土）－10月15日（日）

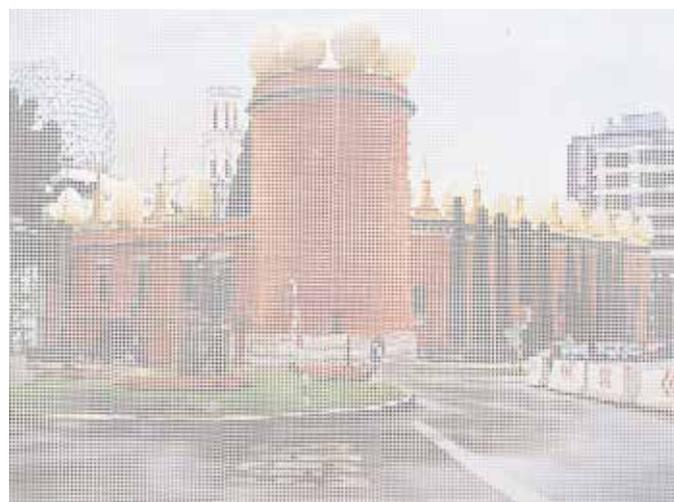


1. 青木千絵《BODY 10-1》(部分) 2010年

小企画
美術の中のかたち―手で見る造形
青木千絵展 漆黒の身体

特集

みなと物語 新収蔵品を交えて



3. 渡辺聡《Museo Dali》2008年

県美プレミアム

兵庫県立美術館は、前身の近代美術館時代から数えて約45年にわたり収集活動を続け、現在9,000点を超える作品を収蔵しています。それらは収集方針を反映して、国内外の近代彫刻と版画、日本近代の名作、兵庫ゆかりの作品、関西の現代美術に大別されますが、内容は実に多岐にわたり、一瞥しただけではその総体をとらえきれません。そこで、当館では、1年を3期に区切り、個々に展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介し、変化に富んだ常設展示をおこなっています。

開催情報

会期：2017年7月8日(土)－10月15日(日)

休館日：月曜日(ただし7月17日、9月18日、10月9日は開館)、7月18日(火)、9月19日(火)、10月10日(火)

開館時間：午前10時－午後6時

(特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで)

※入場は閉館の30分前まで

観覧料金：一般：500(400)〈300〉円

大学生：400(300)〈200〉円

70歳以上：250(200)〈150〉円

高校生以下：無料

※()は団体料金(20名以上)

〈 〉は特別展セット割引料金

※障がいのある方とその介護の方1名は無料。

※割引を受けられる方は、証明できるものをご持参の上、会期中美術館窓口で観覧券をお買い求めください。

※毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団のご協力により無料で観覧できます。

会場：兵庫県立美術館 常設展示室

文化庁 平成29年度 文化庁
 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL: 078-262-0901 (代表)

FAX: 078-262-0903

http://www.artm.pref.hyogo.jp

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 (グループ直通)

FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

小企画「美術の中のかたち－手で見る造形

青木千絵展 漆黒の身体」

担当学芸員：橋本こずえ

e-mail: hashimoto.k@artm.pref.hyogo.jp

特集「みなと物語」

担当学芸員：鈴木慈子

e-mail: suzuki@artm.pref.hyogo.jp

いずれも、TEL: 078-262-0909 (学芸直通)

FAX: 078-262-0913

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

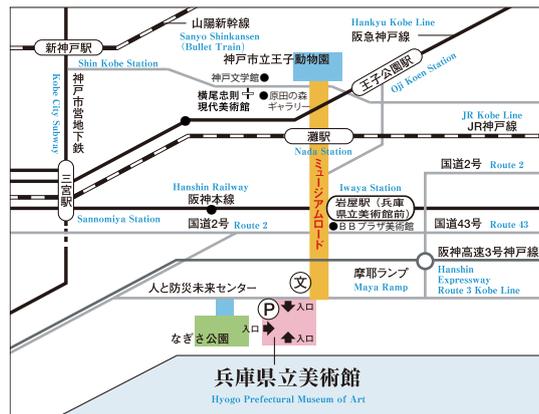
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

JR三ノ宮駅から、阪神バス「HAT神戸行き」、神戸市バス「101系統」「29系統」にて約15分、「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場/乗用車80台収容・有料

※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

※団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



開催趣旨

兵庫県立美術館では、美術鑑賞の機会が少ない目の見えない方にも作品をたのしんでいただくために、1989年から「美術の中のかたち—手で見る造形」展を開催してきました。今年で28回目となる本展では、漆を素材として身体を表現する青木千絵の作品を展示します。

身体は私たちにとってもっとも身近なかたちです。毎日触れている日常的な身体が、青木の作品においては不思議な抽象形態と融合しています。それは静かに横たわり、ドロリとした塊に呑み込まれているような、あるいは、艶やかな球体に変形しているような印象的なかたちです。

かたちに加えて、乾漆技法と呼ばれる漆の立体造形の技法で制作されていることも作品の大きな特徴です。麻布で下地を形成し、さらに漆を段階的に塗り重ねる50を超える工程には長い時間と手間が必要です。とりわけ、作品に用いられている「鏡面仕上げ」においては、小さな凹みですら滑らかな表面を損なってしまうため、原型を作る工程から完成に至るまで神経を研ぎ澄ませて制作が行われます。慎重に手のひらで確認し、砥石や木炭を使って仕上げられた作品に触れることは、作家が制作と向き合った時間を共有することに通じます。素材とかたちを通して、人間の存在を探求する作家の試みは、視覚からだけでなく、触覚から感じとることができるでしょう。

小企画 美術の中のかたち—手で見る造形 青木千絵展 漆黒の身体

本展のみどころ

- 出品作品の一部をさわって素材とかたちを鑑賞する展覧会です。
- 日用品ではなく彫刻作品の素材として漆が使用されています。
- 両手のひらで包み込むことができる小さな作品から、等身大の作品まで展示します。



2. 青木千絵《BODY 10-1》2010年



青木千絵 略歴

- 1981年 岐阜県生まれ
2005年 金沢美術工芸大学美術工芸学部工芸科卒業（日本漆工奨学賞受賞）
2006年 金沢美術工芸大学大学院修士課程美術工芸研究科修了
2010年 金沢美術工芸大学大学院博士課程後期美術工芸研究科 工芸研究領域漆・木工コース修了（大学作品買い上げ）
現在、石川県在住

【主な個展】

- 2006年 青木千絵展（ギャラリー手／東京）
2007年 青木千絵展（ギャラリー手／東京）
2010年 青木千絵展（ガレリア フィナルテ／愛知）
2011年 URUSHI BODY 青木千絵展（INAX ギャラリー 2／東京）

【主なグループ展】

- 2006年 TAMA VIVANT 2006 今、リズムが重なる展（多摩美術大学八王子キャンパス絵画棟ギャラリー／東京、みなとみらい線みなとみらい駅地下3階コンコース／神奈川）
2008年 金沢アートプラットフォーム 2008—自分たちの生きる場所を自分たちでつくるために（椿原天満宮／石川 主催：金沢 21 世紀美術館）
2010年 第1回金沢・世界工芸トリエンナーレ（リファーレ 2F、金沢 21 世紀美術館／石川）
漆 そのあたらしい表現を巡って（喜多方市美術館／福島）
2011年 漆展—新しい漆のかたち—（伊丹市立工芸センター／兵庫）
2012年 漆・うるわしの饗宴展（山脇ギャラリー／東京、京都市立芸術大学ギャラリー／京都、喜多方市美術館／福島）
2013年 Hubei International Triennial of Lacquer Art 2013（湖北美術館／中国）
2014年 Shizubi Project 4 ヒトのカタチ、彫刻 津田亜紀子／藤原彩人／青木千絵（静岡市美術館／静岡）
2016年 Hubei International Triennial of Lacquer Art 2016（湖北美術館／中国）
金沢の現代工芸最前線（金沢市立安江金箔工芸館／石川）
蜘蛛の糸 クモがつむぐ美の系譜—江戸から現代へ（豊田市美術館／愛知）



関連イベント

■こどものイベント「パーツに注目！ブロンズ粘土でつくるからだ」

講師：青木千絵（出展作家）

9月2日（土）13:00～（約3時間）

会場：アトリエ2

参加費：600円

対象：小学校3年生以上 2人1組で参加

※大人2人でのご参加はご遠慮ください

要事前申込（定員10組）

こどものイベント係（tel.078-262-0908）にお電話ください。

8月2日（水）10:00より受付けます。

■アーティスト・トーク

講師：青木千絵（出展作家）

9月3日（日）13:30～（約60分）

会場：レクチャールーム

聴講無料（定員100名）

（兵庫県立美術館「芸術の館」支援事業）

■ミュージアム・アクセス・ビュー主催 鑑賞ツアー

7月23日（日）13:00～16:30

会場：レクチャールーム

参加費：800円

募集人数：視覚に障がいのある方10名、晴眼者20名

※ツアーのお申込み・お問合せ

- ・1.お名前 2.連絡先 3.障害の有無 4.障害のある方は同伴者の有無 5.集合場所のご希望（美術館レクチャールーム、阪神岩屋駅、JR灘駅） 6.過去に鑑賞ツアーへご参加いただいたことがありますか？

以上の項目を、電話またはメールにてお申込ください。

・電話 080-5352-7005

・メールアドレス museumaccess.view@gmail.com

確認後、折り返し確認メールを送ります。

※ミュージアム・アクセス・ビューは、2002年から京都を活動拠点に、視覚に障がいのある人と晴眼者が参加する鑑賞ツアーを開催。作品を楽しむだけでなく、参加者が会話を楽しむことを目的としています。お互いの「見え方」「感じ方」の違いを発見し、共有することで鑑賞を深める機会となります。

※詳しい情報は主催者のウェブサイトをご覧ください

<http://u0u0.net/DtDT>

開催趣旨

兵庫県立美術館の特徴として、神戸港にほど近いウォーターフロントに位置することがあげられます。今年は神戸開港150周年でもあり、「みなと」にちなんだ展覧会を開催します。

「みなと」には、船着き場や、船路（ふなみち）、水の出入り口、人や物の集まる場所、行き着いてとどまる場所といった意味があります。これらの語意を手がかりに、新しく収蔵された作品とともに、当館の多彩なコレクションをお楽しみください。美術館もまた、多くの作品が集まり、とどまる「みなと」なのです。

※太字が新収蔵品

展示構成

パート1 波濤を越えて

平成26年度の収蔵品で、今回が初めてのお披露目となる今井俊満《ヴェネツィアに捧ぐ 波濤図》を中心に、さまざまな水の表現や、神戸港から西洋へ旅立った作家たちの作品を紹介します。

今井俊満《ヴェネツィアに捧ぐ 波濤図》1993年、北村四海《橘媛》1915年、小出檜重《ピジャマの女》1922年、上山二郎《テーブルの魚》1922年ほか

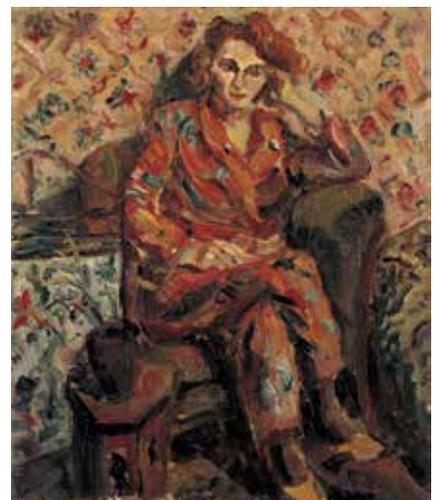
ここにも注目

2階に記念室を設けている二人の画家、小磯良平と金山平三も、神戸からヨーロッパに向けて出帆しました。

特集

みなと物語

新収蔵品を交えて



4. 小出檜重《ピジャマの女》1922年



5. 上山二郎《テーブルの魚》1922年

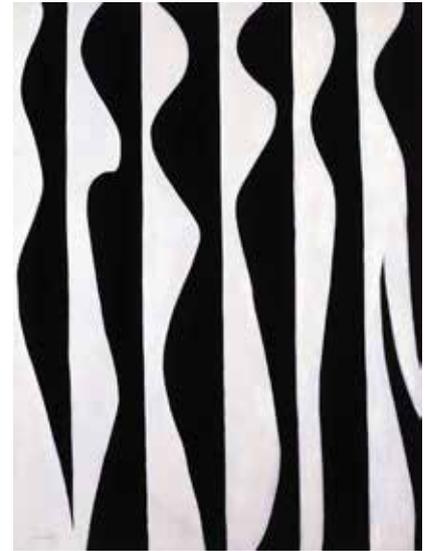
パート2 集合

このパートでは、何かが集合しているさま、群像の表現や繰り返しの構造を見比べます。新収蔵の渡辺聡《Museo Dali》は、ドットの集合体で、印刷物の網点やデジタル画像のピクセルを思わせます。

吉原治良《群像》1946年頃、田中敦子《作品》1960年、渡辺聡《Museo Dali》2008年、西村功《僕の個展》1969年、グループ〈位〉《非人称人間》1967年／2004年再制作ほか

ここにも注目

1965年、神戸の若い芸術家9名が結成したグループ〈位〉は、世界とは何かについて、個人ではなく集団で思考し、作品にしました。



6. 吉原治良《群像》1946年頃

パート3 重層

絵画の表面である「絵肌」、絵の具などが層になっているさまに注目します。絵画は基本的に層構造になっており、物質的な重なりだけでなく、画家の思いや行為などが行き着く先でもあります。

星襄一《王の樹》1976年、貝原六一《落馬するドン・キホーテ》1982年、正木隆《DIVING work 02-1》2002年ほか

この1点

新収蔵の星襄一《王の樹》は木版画で、油性インクを使い、凹版と凸版を複雑に重ねる独特の技法を用いています。独創的な手法によって出来上がった絵肌。その質感は、見どころのひとつです。



7. 星襄一《王の樹》1976年

パート4 みなとからアジアへ

20世紀前半に描かれた「アジア」について考えます。日本とも西洋とも異なる、アジアに向けられた眼差しは、当時の政策を反映したものや日常への共感など、一様ではありません。

安井曾太郎《女の顔》1931年、福田眉仙「中国スケッチ」全12点、和田三造《朝鮮総督府壁画画稿》1926年頃ほか



8. 安井曾太郎《女の顔》1931年



9. 和田三造《朝鮮総督府壁画画稿》1926年頃

このほか、以下の展示があります。

近現代の彫刻（常設展示室1階）

当館コレクションの柱のひとつに「近現代の彫刻」があります。今回は約15点を展示します。

安藤忠雄コーナー（常設展示室1階）

当館の建築設計を担当した安藤忠雄建築研究所から寄贈された建築模型・資料類を紹介するコーナーです。

小磯良平記念室・金山平三記念室（常設展示室2階）

神戸出身のふたりの洋画の巨匠を顕彰する記念室です。いずれも新収蔵品を交えた展示となる予定です。

関連イベント

ミュージアムボランティアによるガイドツアー
 会期中の金・土・日 13:00～（約45分）
 エントランスに集合
 参加無料（要観覧券・定員なし）

学芸員によるギャラリートーク
 7月8日（土）、10月14日（土）
 いずれも16:00～（約40分）
 参加無料（要観覧券・定員なし）

「美かえるからの挑戦状2017」
 7月22日（土）13:30～16:00
 対象：小学3年生～高校生とその家族
 募集人数：30名
 ※要申込み（6/22の朝10時より電話にて受付・先着順）
 参加費：200円（材料費、保険）
 ※大学生以上は要観覧券
 [お問合せ・申込先] こどものイベント係
 078-262-0908

「夏休みスペシャル」
 8月5日（土）・6日（日）11:00～16:00
 「のりちゃん先生の夏休みの工作相談室」
 「展示室でわいわいわい」
 「コレクションde工作！」
 「昼下がりのバッジ工場」

広報画像申込書

兵庫県立美術館

県美プレミアム 小企画「美術の中のかたち—手で見る造形 青木千絵展 漆黒の身体」

特集「みなと物語 新収蔵品を交えて」 2017年7月8日(土) - 10月15日(日)

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年 など
1	青木千絵《BODY 10-1》(部分) 2010年
2	青木千絵《BODY 10-1》2010年
3	渡辺聡《Museo Dali》2008年
4	小出檜重《ピジャマの女》1922年
5	上山二郎《テーブルの魚》1922年
6	吉原治良《群像》1946年頃
7	星襄一《王の樹》1976年
8	安井曾太郎《女の顔》1931年
9	和田三造《朝鮮総督府壁画画稿》1926年頃

- ※上記作品画像を媒体掲載される際には、記載の**作家名・作品名・制作年**などを必ず入れてください。
- ※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。
- ※画像データ使用は、**本展覧会の紹介用のみ**とさせていただきます。それ以外での使用はできません。(会期終了まで)
- ※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- ※Webサイトに掲載する場合は必ず**コピーガード**を施してください。
- ※基本情報、図版使用の確認のため、**ゲラ刷り・原稿の段階**で営業・広報グループまでお送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ	『	』
	TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着 希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大5組10名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)		組	名分希望

- ※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、**お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD)、URL**などを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。
- ※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。